

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和2年度
福島県意見交換会(第2回)**

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

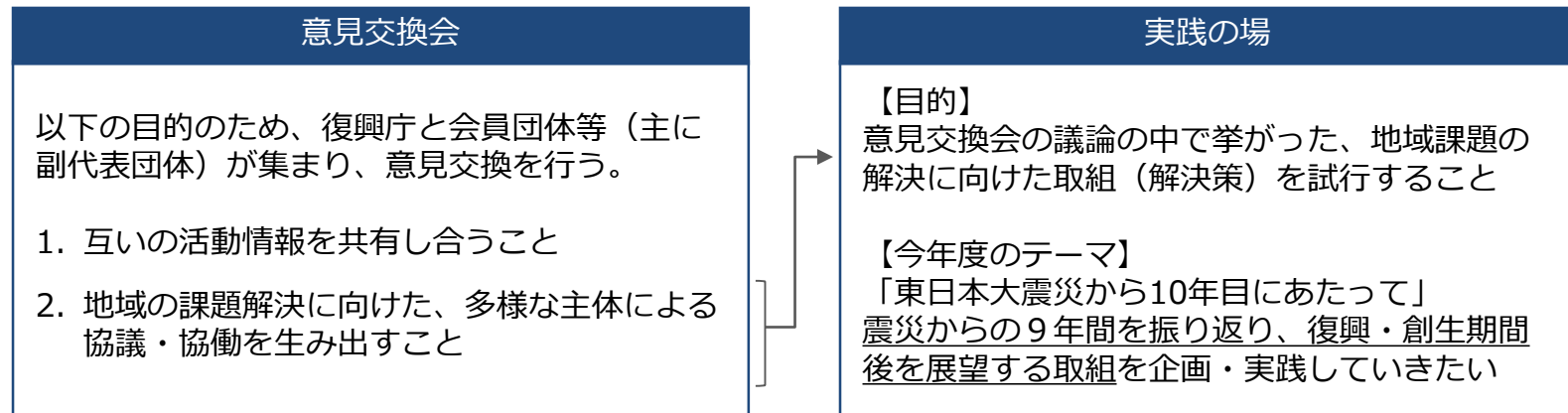
2020年9月3日

1. 意見交換会の概要
2. 第1回意見交換会・事後調整の結果
3. 第2回意見交換会での検討事項
 - (1) 企画趣旨
 - (2) 当日プログラム
 - (3) 参加者等募集方法
 - (4) 開催形式
 - (5) 開催後の継続・発展の案
 - (6) 今後の協議会への期待・要望
4. 今後のスケジュール

● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の方向性

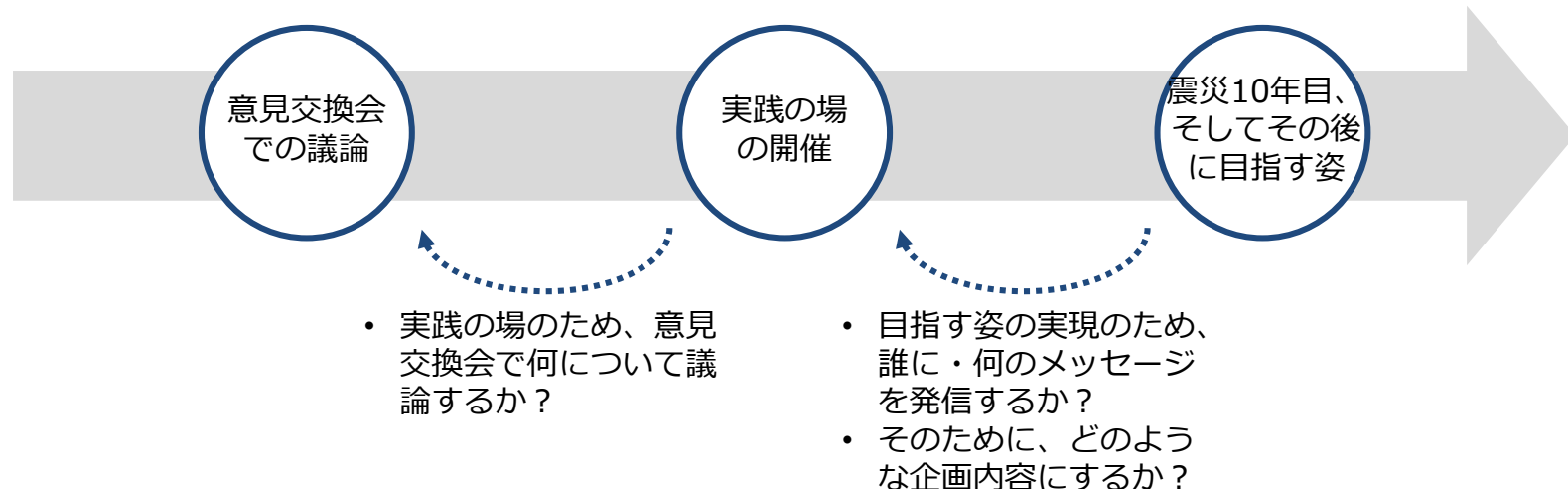
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

■ 意見交換会、実践の場とは



■ 今年度の方向性

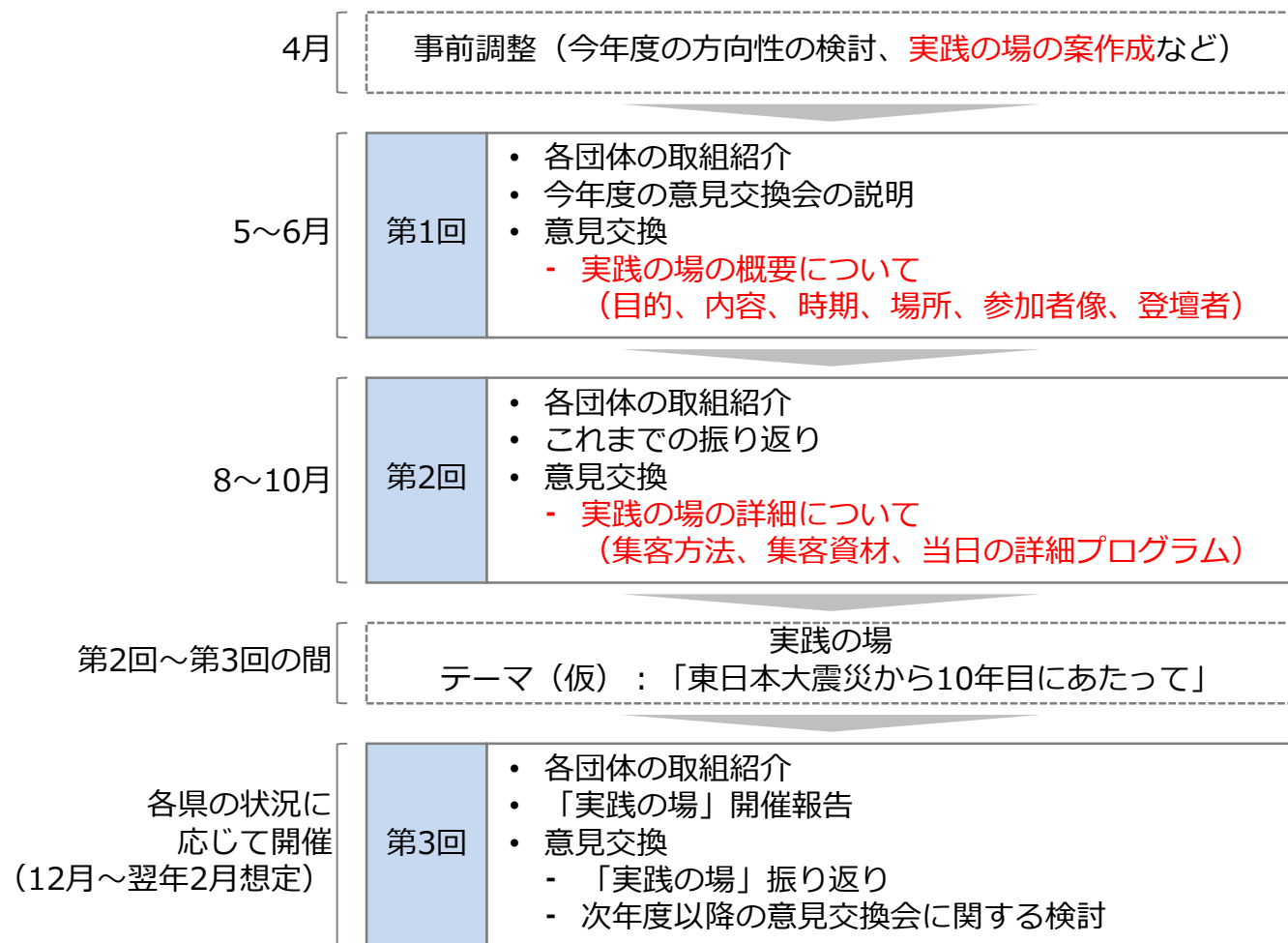
東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と実践の場を開催予定です。

ただし実践の場を秋以降の早い時期に開催できるよう、昨年度より前倒し、第1回には概要を、第2回には詳細を決定する段取りで進めています。



● 2. 第1回意見交換会・事後調整の結果

第1回意見交換会および事後調整時に挙げたご意見をもとに、以下の通り企画へ反映いたしました。

第1回および事後調整にて挙げたご意見（一例）

企画への反映方法（案）

<p>企画趣旨 (目的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の裏にある考えや経緯を話せるのはよい ・ 知見共有や気付きの先にある、アウトプットについても検討が必要 ・ 実践の場から連携に繋げることも可能 ・ 若い世代も巻き込むべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下3点を目的とする 【対内】自らの活動の内省・言語化 【対外】発信による若い世代等の関心喚起 【対内外】知見等の共有による連携の土壌づくり <p>詳細はP.5</p>
<p>当日 プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換のテーマは「生業の再生」「コミュニティ形成」「地域づくり」を軸としつつ、「新しい生活様式」や震災の風化対策などの要素を加える ・ 論点・ゴールが明確だと意見交換しやすい ・ テーマ設定理由など主催者の思いを伝えるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換のテーマは「生業の再生」「コミュニティ形成」「地域づくり」とし、さらに各2点のサブテーマを設定する <p>詳細はP.6-8</p>
<p>参加者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登壇者は福島復興に尽力されている方を前提とし、著名な方と、あまり知られていなくとも地道に活動されている方の双方を含めた方がよい ・ 参加者に若い世代を含めるべき ・ 双葉郡の事業者、移住者と関わりたい ・ 女性目線の意見も聞きたい 	<p>【登壇者】 福島復興に尽力されている方のうち、意見交換会出席者の推薦と福島復興局の案を踏まえて決定する</p> <p>【参加者・傍聴者】 協議会会員に加え、若者等も含め、バランス良く幅広く集める</p> <p>詳細はP.9</p>
<p>開催形式や 運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地＋オンラインが望ましい ・ 浜通りだけでなく、県内の別の場所にサテライト会場を設けることも一案である ・ オンライン配信は解説を付けた方が理解が進む ・ 事前にファシリテーター・登壇者・参加者で顔合わせをしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営負荷を考慮し、現地1拠点＋オンラインでの開催とする ・ 事前にファシリテーター・登壇者・参加者で顔合わせを行う <p>詳細はP.11</p>

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (1) 企画趣旨

企画趣旨は、【若い世代等の関心をひきつける】【相乗効果の獲得（連携の土壌づくり）】という観点を追加し、目的を修正・追記しました。対案や追加の改善点がないかご意見ください。

タイトル	東日本大震災からの復興における多様な主体の取組 ～東日本大震災から10年の経験を明日の挑戦へ～	変更なし
企画趣旨	<p>令和2年度は、東日本大震災（以下「震災」という。）から10年目の節目を迎える年であり、かつ、復興・創生期間の最終年である。この間、多様な担い手による活動が展開され、福島復興が進められてきた。</p> <p>福島復興は10年目以降も長い年月を要するため、現在活動中の担い手だけではなく、若い世代を中心に新たな担い手が増えることが不可欠である。</p> <p>挑戦的な活動の中で課題に直面することは多々あり、課題にどう対処したのか、どう考えたのかという、担い手自身から生じてくるものに知見としての価値が秘められている。</p> <p>このため、挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的とする。</p> <p>また、この機会を通じて前向きな気持ちで今も挑戦し続けている担い手の姿を発信することにより、県内外の、若い世代やかつて福島復興に関わった経験のある層の関心をひきつけることも目的とする。</p> <p>加えて、多様な担い手が集まる機会を活かし、各自の知見・技能を互いに共有することにより刺激を生じさせ、相乗効果を得ることも目的とする。</p>	<p>目的の1点目は言い回しのみ修正</p> <p>【修正前】 同協議会メンバー等が、今日に至るまでの活動を振り返るとともに、各自の知見・技能を互いに共有する</p> <p>目的の2点目は、若い世代や過去に復興に関わった方の関心喚起に修正</p> <p>【修正前】 地域内に蓄積された事例・知見を全国の協議会関係者等で共有する</p> <p>目的の3点目は、他2点を踏まえて、県内外が連携していくための土壌づくりを目指す文言に修正</p> <p>【修正前】 震災からの復興に向けた今後の取組につなげる</p>

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 当日プログラム：全体

当日プログラムの全体の流れについて大きな変更はございません。円滑に進行できるように、事前に顔合わせや資料共有を行うことや、予備・休憩の時間を十分に確保する工夫をします。

時間		プログラム	内容
13:30～13:40	10分	開会挨拶	福島復興局より開会の挨拶、協議会の説明、企画趣旨、プログラムを説明及び登壇者の紹介。
13:40～14:55	60分 + 予備 15分	ミニプレゼン	登壇者6名（3テーマ各2名）が10分ずつ以下を発表。 <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組の概要 （事前顔合わせや資料の事前共有を行うことで、当日は短時間に収める） 取組の背景となった地域課題と着眼点 取組を通じて考えてきたこと、今考えていること 今後の展望
14:55～15:05	10分	休憩・移動	各自休憩（意見交換の会場レイアウトに変更）
15:05～16:35	1時間 30分	意見交換 （途中休憩含む）	以下の3テーマに分かれて、意見交換を実施。 ① 生業の再生 ② コミュニティ形成 ③ 地域づくり
16:35～16:45	10分	休憩	各自休憩（ファシリテーターは内容をまとめる）
16:45～17:00	15分	全体会	ファシリテーターが各テーマの意見交換の結果をとりまとめ、全体に向けて発表。（5分×3チーム）
17:00～17:05	5分	閉会挨拶	福島復興局より閉会の挨拶を行う。 参加者等はアンケートを記入し、退場する。

計3時間35分

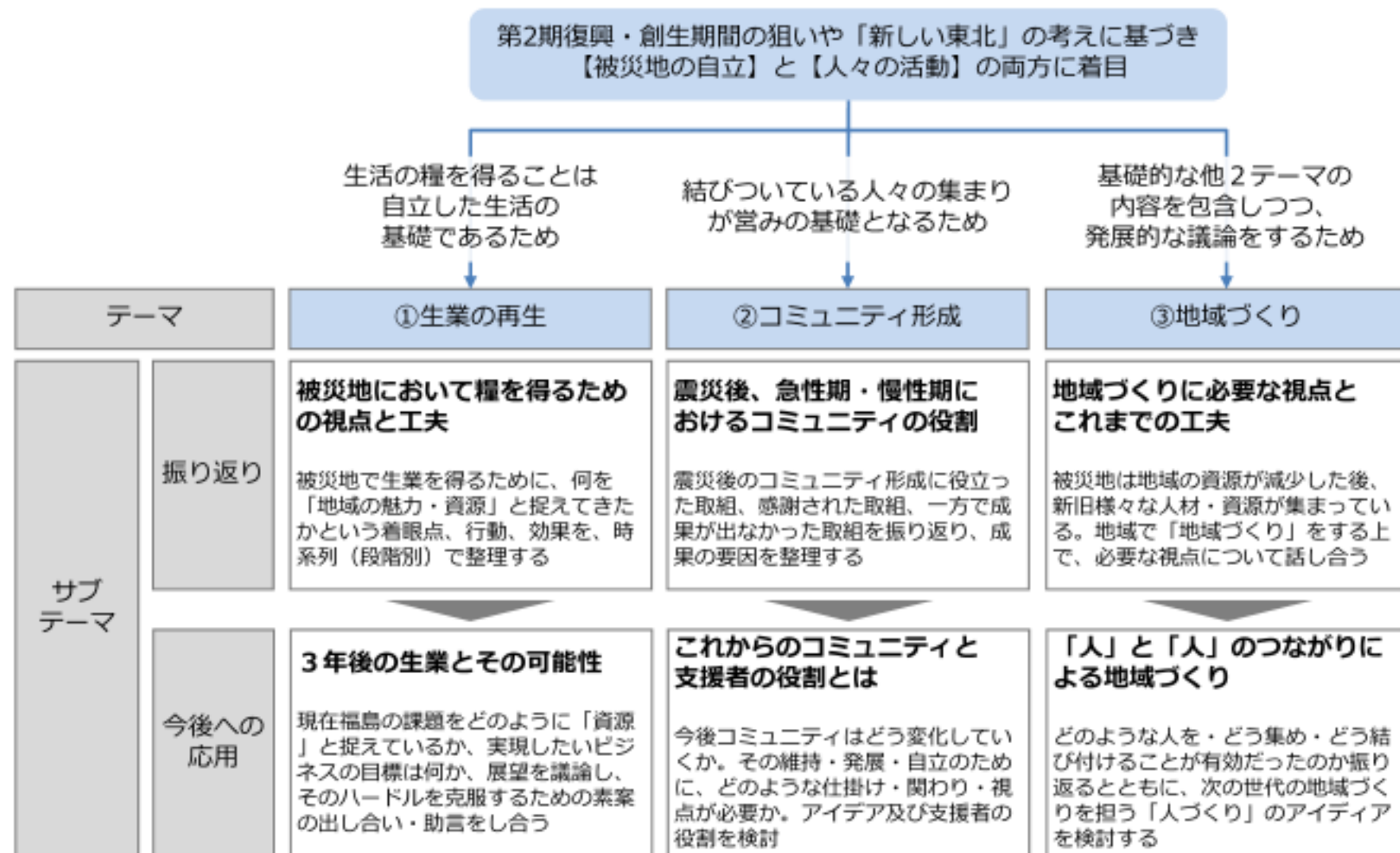
事前顔合わせや資料共有などを行うことで、当日は取組自体の紹介を簡略化

（顔合わせはイベント開催日前に行うことが望ましいが、難しい場合は当日午前中に実施する）

テーマの詳細はP.7を、実施形式の詳細はP.8～9を参照

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 当日プログラム：意見交換のテーマ

①生業の再生、②コミュニティ形成、③地域づくりの3テーマに分かれた上で、振り返りと今後への応用の観点に基づき意見交換を行う予定です。対案や追加の改善点がないかご意見ください。



● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 当日プログラム：意見交換の方法

意見交換の方法は、県内で深く意見交換した上で広める形（深化・展開型）または傍聴者も含めて当日意見交換を進める形（協創型）が考えられます。今回の目的に対してどちらが適するかご意見ください。

	<div> 深化・展開型 </div> <div> まず県内関係者で深く意見交換し、 つながりをもつた上で、 さらに県外向けにも広める </div>	<div> 協創型 </div> <div> 地域を越えて傍聴者も 意見交換に加わり、新たなつながり ・気づきをその場で生み出す </div>
目的との関連性	1点目（自らの活動の内省・言語化）に関連性がより強い	2点目（発信による若い世代等の関心喚起）、3点目（知見等の共有による連携の土壌づくり）に関連性がより強い
登壇者・参加者（現地）のメリット	県内の方のみでの意見交換による、 <u>深い</u> つながり、 <u>深い</u> 気づき・知見等の獲得	県内外の方との意見交換による、 <u>広い</u> つながり、 <u>広い</u> 気づき・知見等の獲得
傍聴者（オンライン）のメリット	分かりやすくまとめられた意見交換を視聴することによる、 <u>効率的な</u> つながり・気づき等の獲得（3分野とも視聴可能な想定）	意見交換に自身の意見・質問が盛り込まれることによる、 <u>能動的な</u> つながり・気づき等の獲得（いずれか1分野のみ選択する想定）
実施形式	<ul style="list-style-type: none"> 当日は現地に登壇者・参加者のみを集めて開催する 当日の様子・アウトプットの要点を映像に分かりやすくまとめて、後日傍聴者に配信する（傍聴者のコメント・連携ニーズ・連絡先*は登壇者・参加者にも後日共有する） 	<ul style="list-style-type: none"> 現地には登壇者・参加者のみを集め、<u>同時に全国の傍聴者に対してオンラインで映像を配信する</u> リアルタイムに傍聴者からコメントを集めて登壇者・参加者の意見交換に反映する 登壇者・参加者・傍聴者の連携ニーズ・連絡先*は当日（又は後日すぐに）共有する

* 連携ニーズや連絡先の共有は希望のあった方のみ実施する想定（全員対面での名刺交換ができないためこの形で代替）

● 【参考】 福島局が想定する実施形式

- i) 10年間という長期間の、多くの知見を共有したい（県内外とのやり取りでは、知見が散漫になる可能性がある）、
- ii) 現実的なオンラインの限界がある（建設的、能動的なコメントが出るか分からない）ことから、

福島局としては、**深化・展開型**
 まず県内関係者で深く意見交換し、つながりを強めた上で、さらに県外向けにも広める としていたい。

▼技術面・コスト面を考慮し具体的な実施形式は以下を想定

時間		プログラム	マスコミ	リアルタイム配信	後日配信
13:30~13:40	10分	開会挨拶	公開 ・ 事前にプレスリリースし、ミニプレゼンの様子は取材可能とする。	公開 ・ You Tube等で一般にも広く公開	公開 ・ You Tube等で一般にも広く公開
13:40~14:55	60分 + 予備 15分	ミニプレゼン			
14:55~15:05	10分	休憩・移動	非公開 ・ 詳細を知りたい記者がいれば別途取材は受け付けるが、意見交換の様子は公開しない。	非公開 ・ 後日配信するため一般への配慮はしつつも、当日は関係者だけの場で深い議論をしていただく。	公開 ・ 編集したものをYou Tube等で公開 ・ 興味・関心のありそうなコミュニティに積極的に案内
15:05~16:35	1時間 30分	意見交換 (途中休憩含む)			
16:35~16:45	10分	休憩			
16:45~17:00	15分	全体会			
17:00~17:05	5分	閉会挨拶			

計3時間35分

確実に動画を
活用して
もらえる仕
掛けづくり
を検討

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (3) 参加者等募集方法

参加者は協議会事務局等が直接声掛けを行い、傍聴者はターゲットの団体や情報媒体を特定して募集を行う予定です。今回の企画趣旨を踏まえて、どのような方向けに、どのような方法で募集するとよいかがご意見ください。

呼称	役割	ターゲット イメージ	参加場所	各テーマ の人数	募集方法
登壇者	ミニプレゼンの発表と意見交換での議論を行う (その他は傍聴・質疑)	浜通りで活動されていて「新しい東北」関連事業で表彰・顕彰された方等、広く知られている方	現地会場	2名	福島復興局の案や意見交換会出席者の推薦をもとに決定済み
ファシリテーター	意見交換のファシリテーションと全体会での発表を行う	浜通り等で活動されていてファシリテーションスキルのある方	現地会場	1名	
参加者	意見交換で議論を行う (その他は傍聴・質疑)	協議会会員・まちづくり会社・行政・学生などのうち、 現在復興に携わっている等、意見交換を積極的に行える方	現地会場	5～6名	協議会事務局・意見交換会出席者が 候補者をリストアップし、直接参加を依頼 する
傍聴者	実践の場全体を通して、議論・発表を傍聴・質疑する (深化・展開型：後日 協創型：当日)	協議会会員・まちづくり会社・行政・学生などのうち、 現在は復興活動から遠ざかっている、または地理的に遠くにいる方	オンライン	制限なし	協議会事務局・意見交換会出席者が 候補者のいそうな団体や、アプローチしやすい情報媒体等をリストアップし、募集 する

「参加者」「傍聴者」はどんな方に、何を使って、どのように周知・募集する方法がよいでしょうか？

● 【参考】登壇者・ファシリテーター

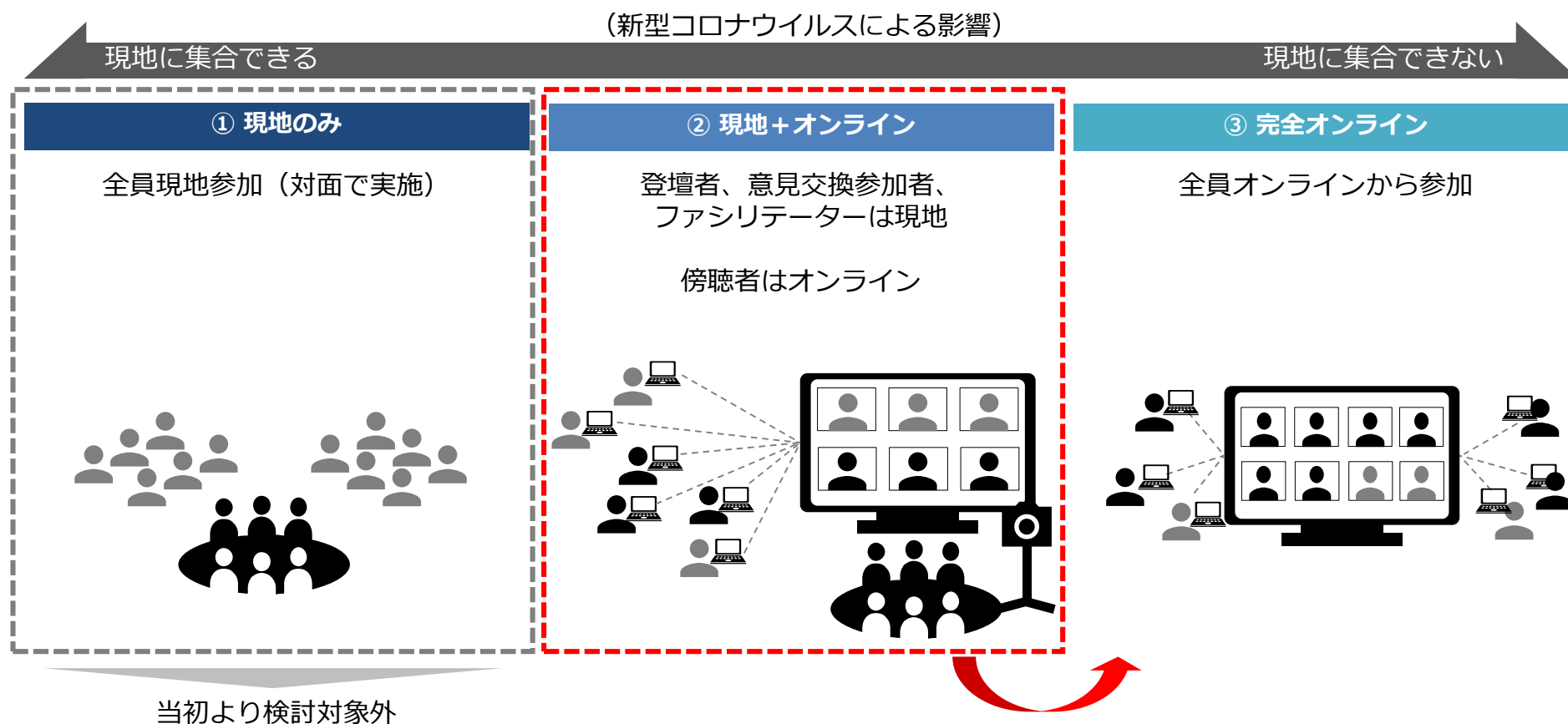
福島復興局の案や意見交換会出席者の推薦をもとに、登壇者・ファシリテーターは以下の方々に決定いたしました。

	①生業の再生	②コミュニティ形成	③地域づくり
登壇者	<ul style="list-style-type: none">・ (株)小高ワークスベース 代表取締役 和田智行 氏・ (株)浜のあきんど 代表 和泉亘 氏	<ul style="list-style-type: none">・ NPO法人ザ・ピープル 理事長 吉田恵美子 氏・ NPO法人ビーンズふくしま 常務理事 中鉢博之 氏	<ul style="list-style-type: none">・ (一社) 葛力創造舎 代表理事 下枝浩徳 氏・ 地域活動家 小松理虔 氏
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none">・ NPO法人チームふくしま 理事長 半田真仁 氏	<ul style="list-style-type: none">・ (一社) ふくしま連携復興センター 元事務局長 遠山賢一郎 氏	<ul style="list-style-type: none">・ 福島県立福島高等学校 教頭 對馬俊晴 氏

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (4) 開催形式

開催形式は「②現地（登壇者、意見交換参加者、ファシリテーター）＋オンライン（傍聴者）」を前提に検討しています。現地での新型コロナウイルス対策にも留意します。

今後の新型コロナウイルスの流行次第で、「③完全オンライン」への変更要否を判断します。



②を前提に検討を進めつつ、変更可能性を考慮して③の場合も並行検討する。
適切なタイミング（例：9月末、10月中旬）で、
新型コロナウイルス対策に関する国・県の方針を踏まえて③への変更要否を判断する。

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (5) 開催後の継続・発展の案

今回の実践の場を通じて、参加者等や地域にどのような影響・変化を与えられるでしょうか？
また、より良い取組とするために必要な要素もあればご意見ください。

Q1.

今回の実践の場を通じて
参加者等や地域に対して
どのような影響・変化を与えられるか？

- ✓ 参加者等がどのような気づきを得られるか
- ✓ 参加者等のどのような行動に繋がられるか
- ✓ どのような連携・取組を創出できるか
- ✓ 上記の結果、地域にはどのような影響を与えられるか

Q2.

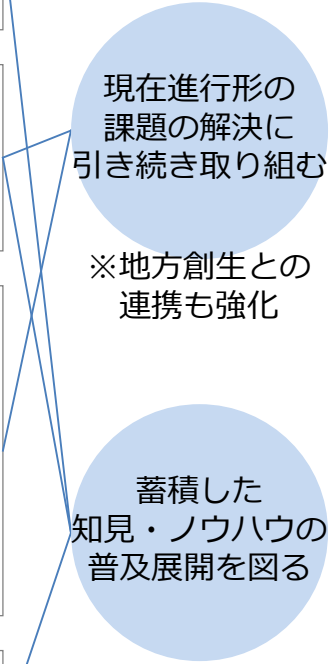
時間等の制約により
今回の実践の場には盛り込めていないが、
取組の改善に必要な要素は他にないか？
(どうすれば継続・発展できるか？)

- ✓ 参加者等への訴求力をより高めるために…
- ✓ 当日に参加者等の意見をより引き出すために…
- ✓ 当日出た意見を確実にアクションに繋げるために…
- ✓ メインで議論する方と傍聴者の両者にとって有意義な企画とするために…

● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (6) 今後の協議会への期待・要望

復興庁内部では、次年度以降（第2期復興・創生期間）の協議会は、「現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む」「蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る」の2点が注力ポイントになると考えています。

■ 次年度以降の協議会に関する考え方

「復興・創生期間」後における 東日本大震災からの 復興の基本方針 (令和元年12月20日閣議決定)	【「新しい東北」の創造 - 今後の課題 - 】 <ul style="list-style-type: none">蓄積したノウハウの普及・展開を図り、被災地において地域課題に取り組む主体が、地方創生の施策の活用等により持続可能な活動を行うことができる環境整備が重要である	 <p>現在進行形の 課題の解決に 引き続き取り組む</p> <p>※地方創生との 連携も強化</p> <p>蓄積した 知見・ノウハウの 普及展開を図る</p>
復興庁設置法等の一部を 改正する法律 (令和2年法律第46号) [附則第三条]	<ul style="list-style-type: none">復興の進捗状況が被災地域ごとに異なること等に鑑み、復興が進展している地域における取組に係る情報を復興の途上にある地域へ提供するなど、東日本大震災からの復興に関する施策の実施を通じて得られた行政の内外の知見を活用するものとする	
令和3年度以降の 復興の取組について (令和2年7月17日 復興推進会議決定) [今後の取組]	【地震・津波被災地域】 <ul style="list-style-type: none">心のケア等の被災者支援を始めとする残された事業に全力を挙げて取り組む ～ とともに、地方創生の施策等を活用することにより ～ 持続可能で活力ある地域社会を創り上げる取組を進める 【原子力災害被災地域】 <ul style="list-style-type: none">原子力災害被災地域の復興・再生には中長期的な対応が必要であり、～ 地震・津波被災地域と共通する事項のほか、第2期復興・創生期間においても引き続き国が前面に立って、本格的な復興・再生に取り組む	
令和3年度復興庁予算 概算要求に係る 基本的考え方 (令和2年7月21日復興庁記者発表)	<ul style="list-style-type: none">東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承するとともに、新しい東北の創造に向けた取組を含めたこれまで10年間の復興庁の取組を通じて蓄積されたノウハウについて情報を発信し、政府部内を含め被災地内外への普及展開を推進する	

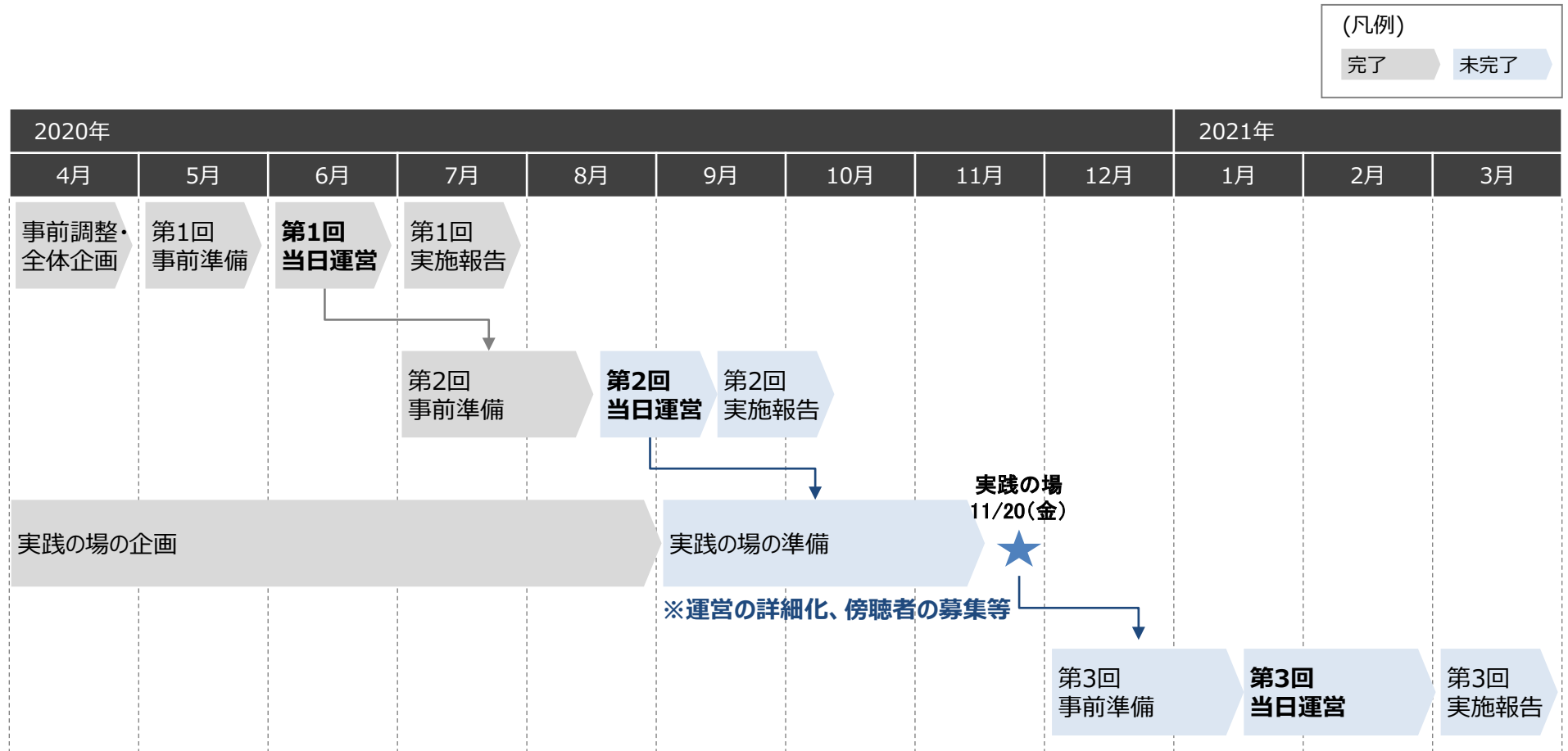
● 3. 第2回意見交換会での検討事項 (6) 今後の協議会への期待・要望

前述の注力ポイント2点への対応案および協議会全体のあり方に関するアイデアや期待・要望などがあればお聞かせください。

注力ポイント	主な論点	協議会のあり方に関する主な論点						
現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む	<ul style="list-style-type: none">どの課題に注力するのがよいか？ （地域／目的／領域／主体…）どのように解決に向けて取り組むとよいか？そのために協議会はどうあるべきか？	<table><tr><td>目的・役割</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？</td></tr><tr><td>事業内容</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？</td></tr><tr><td>会員</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？</td></tr></table>	目的・役割	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？	事業内容	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？	会員	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？
目的・役割	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？							
事業内容	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？							
会員	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？							
蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る	<ul style="list-style-type: none">どのような知見・ノウハウがあるか？どこ・誰に普及展開すべきか？どのように普及展開するとよいか？そのために協議会はどうあるべきか？							

● 4. 今後のスケジュール

意見交換会および実践の場は、以下のスケジュールで推進予定でございます。



※意見交換の進捗状況や日程調整等により、変更となる可能性があります。ご了承ください。